

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 旭区

学 校 名 高殿小学校

学校長名 山内 太一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・高殿小学校では、第6学年 106名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数、理科において平均正答率が全国平均を3ポイント下回る結果となった。無回答率は、全ての教科で選択式の問題は比較的良かったものの、記述式の問題は高くなっており、自分の考えや意見を記述することに課題がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

正答率を見ると、全ての問題で全国平均を下回る結果となった。「A 話すこと・聞くこと」では、全国平均と近い数値となっている。これは、学習中に交流の時間を積極的にとることで、自分の意見を伝えたり、考えを深めたりする力がついてきていると考えられる。しかし、「B 書くこと」においては、全国平均を大きく下回り、自分の考えを記述する問題では、無回答率も全国平均と比較して高くなっている。一方で、本文から抜き出したり、選択したりする問題は全国平均と比較しても無回答の児童は少なかった。今後は、自分の意見や考えを書く活動を多く取り入れて行く必要がある。

〔算数〕

学習指導要領の領域に関する正答率だけを見ると、全ての項目で全国平均を下回っているが、個別の問題でみると、作図や計算など、基礎的な問題の正答率や無回答率は全国平均より良い数値のものがある。子どもたち自身の学習に取り組む姿勢の高まりや、基礎的な力をつける日々の指導の結果が表れてきているといえるだろう。しかし、国語科の結果と同じく、記述式の問題では、正答率や無回答率の数値が大幅に下がることが課題となっている。

〔理科〕

理科では、「A区分 エネルギーを柱とする領域」において、大阪市平均を上回ることができた。電気・磁石・金属の関係を正確にとらえるなど、基礎的な力が身につけていると言えるだろう。一方で「B区分 生命を柱とする領域」の平均正答率が他の領域よりも数値が低くなっており、自分の身近な植物を観察するための器具の操作や、発展的な問題に課題がみられる。また、他の教科と同じように記述式の問題では、無回答率も特に高くなっているため、自分の考えを表現することが課題となっている。

年間を通して、スクールアドバイザーによる支援を得られ、授業力向上に努めてきたことで、子どもたちの「知識・技能」における基礎的な力が身につけてきていることがわかる結果となった。今後は、学校生活全体を通して自分の考えや意見を書く時間をより多くとっていく必要があると考える。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人のや国田t人間になりたいと思いますか」の項目で、全国平均を上回る肯定的回答率が得られた。「自分には、よいところがあると思いますか」の項目では、全国平均にはわずかに届かなかったものの、高い肯定的回答率を得ることができた。

人権教育を根幹に据えたESDを推進している本校において、低学年から他者とのかかわりを大切に、集団育成に取り組んできた成果が表れたと考える。

今後の取組(アクションプラン)

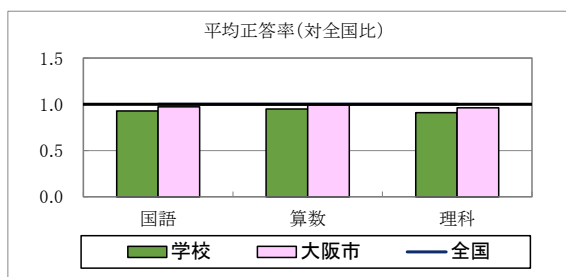
これまでの学校の取組と家庭との協力により、学校に行くことを楽しく感じ、いきいきと学校生活を送っている。今後も家庭と協力して、共に子どもの成長を促し、見守り、一緒に成長できる環境づくりに努める。

本校は国語科を2年間研究している。研究の進め方、取り組み方も一定の成果がでてきたと感じている。国語科の授業が好きと肯定的にとらえている児童は昨年度の6年生よりも9ポイント高くなった。今後も、国語科での考えを深め共有する楽しさを、他の教科につなげていくように研究を進めていく。児童が主体的・意欲的に学習に取り組むために、1人1台学習用端末を効率的に活用しながら、発表や話し合いなどの協働学習を機会あるごとに取り入れていく。

【 全体の概要 】

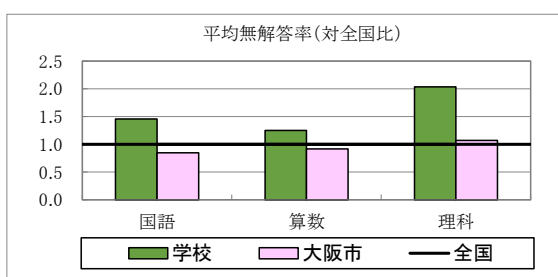
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	62	55	52
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	4.8	4.5	5.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



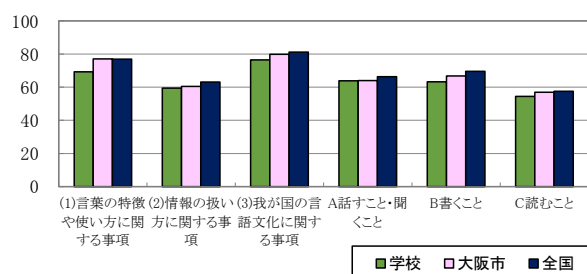
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	69.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	59.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	76.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	63.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.2	66.7	69.5
C 読むこと	4	54.5	56.9	57.5

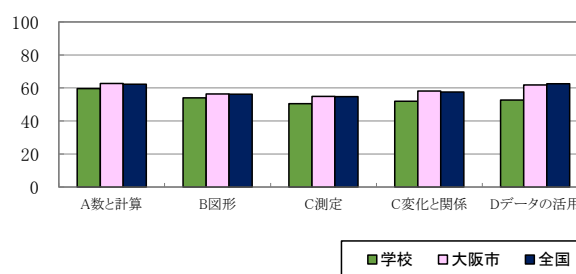
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	59.6	62.7	62.3
B 図形	4	54.0	56.4	56.2
C 測定	2	50.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	51.9	58.2	57.5
D データの活用	5	52.7	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

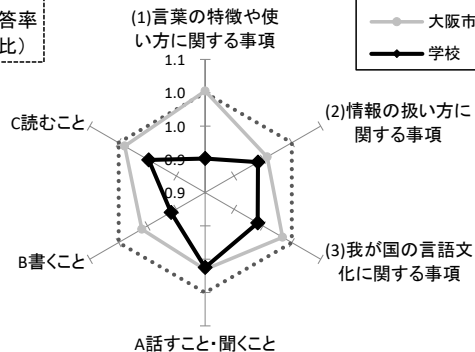


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



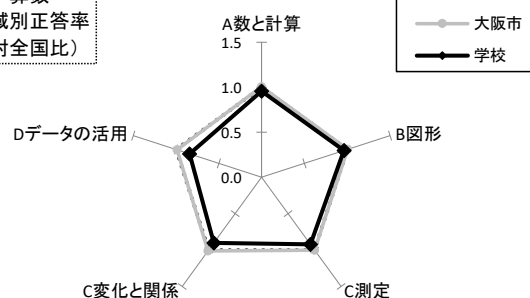
国語

内容別正答率
(対全国比)



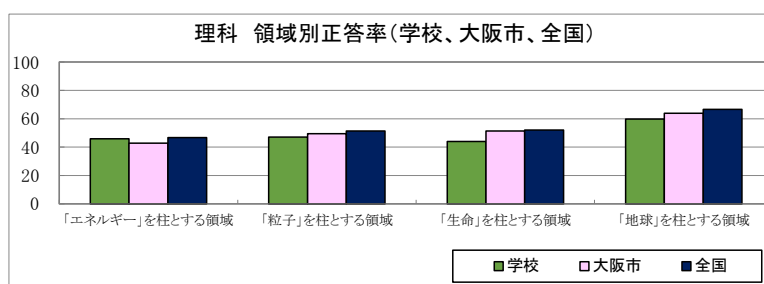
算数

領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	45.8	42.7	46.7
「粒子」を 柱とする領域	6	47.0	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	43.9	51.4	52.0
「地球」を 柱とする領域	6	59.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)

